



古いやり方にNOを突きつける! (前編) 社会起業家・駒崎弘樹氏が語る、「働き方革命」をしないキケン

NPO法人フローレンス 代表理事 駒崎弘樹氏インタビュー
CAREERzine編集部 [著]

公開: 2009/06/10 09:00

タグ: 人間関係 ワーク・ライフ・バランス コミュニケーション

WL病児保育

長時間労働は、本当にできる人の仕事の仕方なのか。ワーク・ライフ・バランスが叫ばれる中、自らの働き方に疑問を持つ人も少なくないだろう。そこで今回は、『働き方革命』の著者であり、かつてはITベンチャーの経営者として猛烈な「働きマン」だった駒崎氏に、これから私たちがどう働いていくべきかについて、お話をうかがった。



子どもの看病でクビになった話に怒りをおぼえ、NPOを立ち上げ

駒崎氏は現在、病児保育を提供するNPO法人フローレンス代表理事を務めている。「病児保育」という言葉を聞き慣れない人も多いと思うが、急に子どもが熱を出した、具合が悪くなったという際に、働く親に代わって子どもを預かる保育サービスだ。駒崎氏は、大学在学中にITベンチャーを立ち上げ、数千万円の売上を挙げるまでの経営者だった。その「やりがいある」職を捨て、いわゆる「社会起業家」となったきっかけは何だったのだろうか。

「僕の母親はベビーシッターだったんですが、顔なじみのお客さんが、あるとき子どもが急に熱を出したので会社を休んだところクビにされてしまったんです。親として当たり前のことをして、職を奪われるなんて許せないと怒りを覚えました。それまでも何か世の中を変える、良くしていく仕事をしたいと思っていたのが、これをきっかけに具体的なイメージに固まっていったのです」

なるほど、だが失礼ながら日本では、NPOというと「本当に食べていけるのか?」と思われるかもしれませんが。なぜあえて株式会社ではなく、NPOだったのだろうか。

「たしかに日本では、ボランティアに毛の生えた程度の認識しかしてくれません。僕がNPOにしたのは、何よりそういう誤解をくつがえしたかったことがあります。欧米では病児保育のような社会的事業を行う際に、NPOにするのはごく当たり前のことになっているのです」

また日本では、NPOは利益を出してはいけない、だから食べていけないと思っている人も多いが、それもまったくの誤解だという。

「株式会社のように利益を分配してはならないだけで、本来の事業に使えばまったく問題はありません。だから利益を上げて構わないし、当然食べてもいけます。ただ、目的がお金儲けではなく、あくまで社会的な事業の推進であるという違いだけなんですね」

長時間労働をすればするほど、生産性は下がる

フローレンスでは、ワーク・ライフ・バランスのため、定時退社を推進。もちろん、代表の駒崎氏も例外ではない。それとは逆に、多くの社員が行っている、残業・休日出勤は当たり前、プライベートを犠牲にする働き方の欠点とは、どのようなものだろう



か。

「日本社会の働き方のもっとも大きな問題は、生産性の低さです。いわゆる経済先進国の中では最下位なんです。この生産性の低さを、長く働くことで補っているのです。しかし同じ仕事により長く時間をかければ、単位時間当たりの生産性は下がっていきま

す。この結果、長時間労働をするほど生産性が下がるという悪循環に陥っているんです」

長時間労働がなくなる背景には、日本の旧来からの労働観も大いに問題があると駒崎氏は指摘する。

「会社に長くいる人間ほど頑張っている＝評価が高くなるという見方が根深くあります。本当はいかに効率よく成果を出したかで評価されるべきなのに、何ともおかしな話です。こんな考え方が続く限り、日本の労働者は会社の仕事だけにエネルギーをうばわれ、自分の子どもの看病や家族との会話といったことに満足な時間を確保できません」 (次ページへ続く)

仕事で培った技術を社会に還元してこそ「社会人」

たしかに、手際よく仕事を片付けて帰りたいのに上司やまわりの目が気になって、毎日遅くまで机に座っている人も決して少なくない。

「そういう方にこそ、『あなたの働き方を変えることが、日本を変えるんですよ』と僕はあえて言いたい。大げさだと思われるかもしれませんが、社会人1人ひとりが持っている能力を、会社だけでなく地域やまわりの人々にも振り向けることが、社会を変えていく原動力になるんです。たとえばエンジニアのスキルというのは、一般人にはないすごい能力です。その技術を活かして、地域のお母さんたちの情報交換のWebサイトを構築するとか、プロの能力を会社の仕事だけでなく、ぜひ社会や地域のためにも使ってほしい」

今のままだと「会社員」ではあっても、「社会人」ではないと駒崎氏は指摘する。

「たしかに、男たる者仕事に全力を注いで大きな成果を挙げて……というイケイケ世代の人から見れば、ぬるいとか、草食系だとか思われるかもしれませんが、でも、仕事以外にもいろんな関心を持って、早く会社から帰って奥さんと話をしたり、地域の人と野球を楽しんだりする方が、ずっと本当の意味で『社会人』です。仕事一本やりじゃないというのを、むしろ楽しくポジティブに受け止めるべきだと思います」

日本の古い成功モデルに「No」を突きつける

駒崎氏は1979年生まれ。自分たちの世代について語るときに、「失われた世代」という表現をしばしば用いる。

「僕らは、いわゆるバブル経済以降に成長期を過ごしました。この1990年代というのは、それまでの価値観が大きく覆される出来事が次々に起こった時代でもありました。僕が中学生のときは先生に、『いい高校に進学できれば、いい大学、いい会社に進める。だから今頑張っておけば、将来にわたっていい人生が送れる』と繰り返し言われたものです。ところが、その後、阪神淡路大震災が起こって、それまでの日常が一瞬で崩れてしまうのを見た。高校生の時に起きたサリン事件で、サリンをまいたのは一流大卒のエリートだった。

あげくに、その翌年には『ブルセラブーム』です。一生懸命勉強して、いい会社に入ってお金を手にした人たちが、結局何を買って喜んでいたのか。そして山一証券の倒産。こうした出来事を目にしながら、『いい学校、いい人生はウソだ』と実感させられたのが、僕たち『失われた世代』なんです」

上の世代が目指した成功モデルは、現実的でもなく、憧れるようなものでもなくなった。ごまかしてきた生産性の低さは、もはや長時間労働では補えないところまで来ている。これまでのやり方では通用しないことは、誰もが感じている。しかし、古いモデルの代わりになるものが見つけられない。そうして、ロールモデルがない、将来が見えないと不安を覚えるのだろう。

だが、駒崎氏が提示しているのは、それに代わる新しい「スタイル」なのだ。その価値を信じ、自分たちが主体的に働き方を変えていくことが、最終的に日本を変えると駒崎氏は主張している。

それでは、具体的にどうしたら働き方は変えられるのか。後編では、具体的に働き方を変えるためのノウハウをお届けする。

プロフィール

●駒崎 弘樹 (こまざき ひろき)

1979年生まれ。99年慶応義塾大学総合政策学部入学。在学中に学生ITベンチャー経営者として、様々な技術を事業化。同大卒業後「地域の力によって病児保育問題を解決し、育児と仕事を両立するのが当然の社会をつくれまいか」と考え、ITベンチャーを共同経営者に譲渡し、「フローレンス・プロジェクト」をスタート。04年内閣府のNPO認証を取得、代表理事に。現在、東京都23区の働く家



庭をサポートしている。

著書に『働き方革命—あなたが今日から日本を変える方法』（ちくま新書）、
『「社会を変える」を仕事にする 社会起業家という生き方』（英治出版）がある。

●NPO法人ホームページ... 病児保育・病後児保育のNPOフローレンス

●駒崎氏のブログ... [「Days like thankful monologue」](#)

[記事](#) » [できる人になりたい!](#)

著者プロフィール



CAREERzine編集部 (キャリアジンヘンシュウブ)

出版社の歴史と信頼、ウェブマガジン編集部のネットワークと情報力を活かして、読者の皆さんのよりよいキャリア構築をお手伝いします。

Article copyright © 2008 CAREERzine, Shoeisha Co., Ltd.

[ページトップへ](#) ↑

[ページトップへ](#) ↑

CAREERzineについて

プログラマやウェブマーケターなど、IT & ウェブ業界でのキャリア構築を支援する無料ウェブマガジン。第一人者による人気連載、注目企業の取材記事や採用情報が満載です。

All contents copyright © 2008-2009 Shoeisha Co., Ltd. All rights reserved. 掲載記事、写真、イラストの無断転載を禁じます。また、記載されているロゴ、商品名、製品名は各社及び商標権者の登録商標あるいは商標です。

[ヘルプ・お問い合わせ](#)

[広告掲載のご案内](#)

[著作権・リンク](#)

[免責事項](#)

[会社概要](#)

[スタッフ募集!](#)

[メンバー情報管理](#)

[プログラミング](#)

[エンタープライズ](#)

[マーケティング](#)


[マネー・投資](#)

[ホワイトペーパー](#)

[ニュース](#)

[プロジェクトマネジメント](#)

[書籍・ソフトを買う](#)

 [新着一覧](#)

